

介護分野における専門日本語教育 —教科書教材を中心に—

立川 和美

1. はじめに—EPAと日本語教育

平成19年度の賃金構造基本統計調査（厚生労働省）では、全労働者の平均年収452万円（平均年齢41歳）に対して、施設介護職員（男性）は307万円（32.6歳）、施設介護職員（女子）は277万円（37.4歳）と、介護職員をめぐる経済的状況は極めて厳しいことが明らかになった。また、介護士としての主な仕事は、食事介助や排せつ介助、おむつ交換、入浴介助、清拭、申し送りなどのいわゆる介護の中核となる業務のほかに、お茶の準備やゴミ収集などのこまごまとした仕事もあり、体力的にも精神的にも負担が大きい。このため、介護福祉士の資格を持ちながら、介護現場で働いていない人も多く、介護士不足は深刻である。そうした中、アジア諸国とのEPAの締結により、日本社会に外国人看護師・介護士の参入が始まり、2008年8月のインドネシア人の来日以降、2009年5月にはフィリピンから283人が来日し、国内の5つの施設で日本語研修が始まった。また、2009年7月にはインドネシア・バンドンで第2期生367名に対する事前研修プログラムがスタートしている。インドネシア人の第1期生は日本国内で約半年間の研修を行ったが、第2期生は、インドネシアで4ヶ月間の日本語研修を行い、その後日本国内で約2ヶ月間の研修を受けることになっている。インドネシア、フィリピンの両国とも日本での就労を希望する者は多く、現地で日本語学校がオープンするなど、関心の高さがうかがえる。

また、EPAの候補者は、現場で必要とされる日本語力に加え、国家試験合格のための日本語力も身につけなければならない。2008年度にはゼロ初級からの候補者を受け入れ、約半年間で現場での就業を目指す日本語教育プログラムが実施されたが、着任後の日本語学習や国家試験受験のための勉強は候補生本人と受け入れ施設に任されており、特別なサポートはないのが現状だ。こうした中、就労を開始して3年以上が経過した現在、外国人介護士候補者たちは、日本語の習得には苦勞しているが、介護の仕事にやり

がいを感じ、施設にも溶け込み、勉強を続けながら介護の仕事をしていきたいと考えている者が多い。

さて、日本語教育専門家による研究・調査に関して目を向けてみると、実際の現場で必要な日本語に関する調査は、現時点ではほとんど行われていない。国家試験に向けての語彙調査や教材開発が進められてはいるが、それが外国人介護福祉士候補者たちの学習にどう結びつき、どういった成果を上げていくかは、今後、明らかになっていくものといえよう。しかし、すでに受け入れた外国人介護士候補者にできるだけ日本で働いてもらうためには、早急に現実に即した措置を国レベルで講じるべきである。一回限りの国家試験で不合格であったために本国に帰国してしまうのでは、日本にとっても送り出し側にとってもマイナスの結果となってしまうからだ^(注1)。

そこで本稿は、外国人介護福祉士に向けた日本語教育において、近年提示された教科書や、自主学習に資すべき教材をとりあげ、外国人介護福祉士への専門日本語教育に関する先行事例や先行研究、日本語教材の実際について考えていきたい。

2. 医療・看護・介護分野の日本語教育の先行事例と研究

まず、看護領域の専門日本語教育の実践についてだが、日本語を母語としない看護師に対する日本語教育としては、1973年から東海大学で行われている、実務経験のある東南アジアの看護師を対象とした短期日本語研修がある。看護分野ではこうしたかなり早い時期からの実践が見られ、それらのカリキュラムや授業活動については、関（1982）が詳述している。この他、大城（1992）が、看護の技術研修に向けた日本語事前研修について論じており、1994年からは、AHPネットワーク協同組合のハノイ日本語センターでのベトナム人看護師養成支援事業が行われている。

これに対して、外国人介護士に対する日本語教育の実践は歴史が浅く、教材の開発や指導は、2000年ごろから盛んになりつつある。今回のEPAで来日している国を例にとると、フィリピンでは、ミンダナオ国際大学でオリジナル教科書『介護の日本語』を用いた日本語授業が行われている。これは、初級修了程度（日本語3級程度）の学習者を対象とし、介護場面の日本語会話を身につけることを目的とするコースである。インドネシアでは、西ジャワ州のチレボン看護学校、バンドン看護学校、バリ州のデンパサール看護短期大学などで、EPA渡日を踏まえた日本語教育が行われているという。この他、日本国内でも1000人以上の在日フィリピン人が、すでにホームヘルパー2級を取得し、全国の介護の現場で働いている。

さて、看護師に対する専門日本語教育の研究については、看護師国家試験に使われた語彙の計量的分析や、病院での看護師による「申し送り」場面の談話分析（永井 2007）などがあり、介護分野では、介護現場で使われるカタカナ語を分析した中山

(2003) や、介護施設で介護職員が記入する日誌と職員同士の「申し送り」に現れた言語的特徴を指摘した石川 (2008)、さらに看護・介護現場を対象とした語彙の文献からのデータベース化について述べた上田 (2007) などがある。

その他、医学系留学生を対象とした日本語教育の実践・研究としては、医学術語の辞書編纂に向けて、基本的な医学術語から2漢字語の研究を行った増田他 (2006) や、医療分野の漢字の出題傾向に関する石鍋 (2007) などがある。

3. 外国人介護福祉士に向けた日本語教育教材と指導方策

3. 1. 国際交流基金教授法シリーズについて

本節では、EPAによる外国人介護労働者来日の際に行われる日本語教育の実践を踏まえ、その指導方策を考えるための具体的なヒントが示された資料として、「国際交流基金教授法シリーズ」の内容を概観する。今回は特に、外国人介護士への専門日本語教育にとって優先すべき事項である「初級」の指導と、「話す」、「聞く」といった領域を取り上げたい。

3. 1. 1. 国際交流基金教授法シリーズ9「初級を教える」

ここでは、日本語で「コミュニケーションできる能力」をつける初級のコースにおいて、何をどのように学習させていったらよいかをテーマとして、教科書の分析や、学習内容と学習目標の決定、授業設計について、指導者が各々の教育現場へ応用が図れるよう、具体的な提案が行われている。

EPAの受け入れ体制が現状維持されるとすると、6か月の集中指導クラスという形式がとられるが、ゼロ初級者のみの集団が来日し続けるということは考えにくく、母国での自学や専門家による指導を経て、ある程度の日本語力をつけた候補者が来日するようになるだろう。そこで、個々の学習者の言語習得の段階をチェックした上で、それに応じた授業の流れや活動を考える必要がある。さらに介護労働という仕事の性質上、コミュニケーション能力の獲得が最優先された初級の授業が求められる。そうした点で、本書は、指導者にとって有益な内容であるといえよう。

具体的には、コース全体の大きな到達目標として、「コミュニケーションに関する目標」、「言語の知識に関する目標」、「言語の技能に関する目標」、「そのほか文化理解に関する目標」などを挙げており、それらを達成するためには、1課ごとや一回の授業ごとといった小さなユニットの中で学習目標を立てて計画することの重要性が指摘されている。

3. 1. 2. 国際交流基金教授法シリーズ6「話すことを教える」

ここでは、会話の授業において「どのような会話能力を育てようとしているのかを意

識する」ことの重要性や、会話能力の育成のために、身近な教材をどう活用すべきかが議論されている。すなわち、「話すこと」とはどんなことで、「話す力」（会話能力）とはどのような能力であるかを考え、それらを育成するためには教室活動がどうあるべきなのかが考えられているのである。ここから、会話の授業の展開や、学習者に合わせた授業計画、教材の工夫、そしてそれらを作成する際の方策が具体的に示される。

例えば、「話す行為」とは、「言いたい内容を考え、言いたい表現を選び、音声に出して相手に伝えるというプロセス」をたどり、話し手と聞き手のコミュニケーションは、「目的」と「情報差」、「選択権」、「反応」から成立していると分析している。そして「話す力」については、ACTFL-OPI（The American Council on the Teaching of Foreign Languages—Oral Proficiency Interview）を用いて、口頭の到達度をインタビューによって測る例を示している^(注2)。

また、コミュニケーションに必要な能力として「社会言語能力・談話能力・ストラテジー能力」を挙げ、話す力を育てるための教室活動として「インタビュー」、「スピーチ」、「ディスカッション」、「ロールプレイ」の4活動を示し、各活動の流れ（活動の目的・活動の方法・活動の流れと実際）についても詳述している^(注3)。

3. 1. 3. 国際交流基金教授法シリーズ5「聞くことを教える」

聴解指導では、「なるべく日常の聴解に近い活動を授業に取り入れ」、「未習の単語や表現」を含んだ内容の理解を促すために、「ストラテジーの練習を積極的に取り入れる」こと、「未習の単語や表現に気付かせ」、聞いたことを「産出に結び付ける」ような内容を授業に取り入れる」ことが重要だとしている。

介護の現場では、とりわけ積極的に聴解力を育成する必要がある。現場では、対面聴解が中心で、「話す」といった産出技能と一緒に使うことはもちろん、高齢者の発話においては、知らない言葉や聞き取れない言葉が多いことから、これらは極めて重要な指摘だといえる。

ここでは、聴解の過程における理解のメカニズムとして、「トップダウンモデル、ボトムアップモデル、相互交流モデル」を紹介し、理論的な基盤とリンクした実践が示されている。また、テキスト・ディスコース理解で重要なストラテジーである「予測」についても、コンテキストを通して可能限り予測を行うべきであり、それが「未習」の語彙を「既習」に変える効果につながるとされている。

こうしたことを基本に、「聴解のストラテジー」として、具体的には以下の項目が提示されている。

- ・ 目的をもって、必要な情報を選別しながら聞く。
- ・ 聞きながら想像したり、先を予測したりする。
- ・ 聞いた内容を自分の背景知識や経験と照合する。

- ・知らない言葉や聞き取れない部分がある。
- ・理解できないことは質問したり推測したりする。
- ・聞くことから言葉を学習する。
- ・聞いた内容についてコメントするなど反応する。

さらに聴解を習得につなげるために、聞いた後の学習を通して強化しておくことが大事だとして、「スクリプトの穴埋め」や「ロールプレイ」、「再話」などの方策が提案されている。

3. 2. 野田尚史 (2009) 「コミュニケーションのための日本語教材作成方法」

介護は対人援助活動であり、相手との直接的なやりとりが業務の中で大きなウエイトを占めるため、日本語のコミュニケーション能力の育成は中心的な課題である。そこで本節では、野田 (2009) で提唱された「コミュニケーション」を中心に据えた言語技術 (読む・書く・聞く・話す) の育成を目指した教材作成についてとりあげたい。

野田氏は、「コミュニケーションのための教材」を作成するポイントとして、以下を挙げている。

- ・「文型」ではなく、状況から出発する。ある「文型」が使われる状況を作るのではない。
- ・実際に使われる生の日本語を使う。たとえば、「聞く」では雑音あり、「読む」ではルビなし、といった教材を作成する。
- ・初級レベルから「聞く」「話す」「読む」「書く」の教材を分ける。
- ・説明については、できるだけ教材使用者の母語や得意な言語を使い、詳しく明快な説明を行う。
- ・短時間でいろいろな活動が行え、自習もでき、教室でも使えるような教材を作成する。

この中で、たとえば「聞く」「話す」「読む」「書く」の教材を分ける必要性については、この4技能のニーズの違い (例：日本語を学びたい人全てが、この4能力を必要としているわけではない) に加えて、4技能の各々で特化する事項が異なっているためだとする。具体的には、「音声」では、「あのう」、「ええと」のようなフィラー、「ね」、「よ」のような格助詞、伝聞の「って」、とりたての「だって」など、話しことば専用の形式を知っている必要がある、また「文字」では、漢字圏の学習者はその知識を利用できるため、そうでない学習者の教材は別のものにする必要があり、さらに「読む」教材では、たとえば「ただ」という表現の後には、それに続く「良くない点」を見つけることを促す、といったことが挙げられている。

また、「教室で教えられることばと実生活において接する日本語」は異なることを指摘し、学習項目を説明して、それを使えるようにするという指導方法だけでなく、「まず実際の使用を提示してから、その役割を説明する」という指導方法も考えていくべきだとし、「学習者自身の視点が反映されていない」、「学習者のおかれた文脈と切り離されて検討されている」といったことが、現在の教材の持つ問題点だとする。

以上の点から、これからの日本語教育の実践において、教師は、学習者に「教える」のではなく、「体験させる」という視点から指導を行う必要がある、日本語教育の研究については、研究者は文法研究だけではなく、言語運用の過程、意味作用の過程を理論的に研究する必要があると提言している。こうした現実のコミュニケーション分析を基にした教材は、特に限定された場面で用いられる日本語を習得しなくてはならない専門日本語学習に非常に役立つものと期待される。

4. 外国人介護福祉士に向けた日本語教材—介護職に特化した教材例—

4. 1. 独立行政法人国際交流基金関西国際センター編著『外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ 英語版』

和英・英和辞書機能を持つ日本語教育支援ウェブサイトの「日本語でケアナビ」は既に2007年7月から公開されているが、このインターネット版では、基礎的な看護や介護の専門用語とともに、働く場での具体的なコミュニケーション表現が盛り込まれていることが特徴である。特に、個々の運用場面における仕事の流れの中での言語表現が考えられており、看護・介護の仕事で不可欠な「思いやり」の言葉などにも配慮した内容となっている。

本書は、これに対応する簡便な辞書版として作成されたもので、日本語学習者のほかに、「職場やコミュニティーで外国人ケア職従事者を受け入れ、ともに働く日本人スタッフ」の利用も目指している。

その構成は、「場面」、「英語」、「日本語」の3方向から言葉が調べられるようになっており、看護や介護の専門用語のほかに、「患者・利用者との会話、声かけ表現、同僚との間で行われる連絡や引継ぎなどのコミュニケーション表現」も取り上げられ、約2500の語彙や表現が収録されている。

三部立ての冒頭「第Ⅰ部 場面から調べる」が、全体の中心的内容を成しているが、これは「基本的ケア」、「診療処置」、「職場で」の3章に分けられ、各詳細場面で使われる言葉や声かけ表現が、イラストと一緒に、漢字かな混じり表記とローマ字表記の日本語で示されている。「第Ⅰ部 場面から調べる」の具体的内容は、以下のとおりである。

第1章 基本的ケア：清潔保持 排泄介助 身体介助 移乗介助

リハビリ・レクリエーション 食事介助 環境整備
ケアプラン 声かけ

第2章 診療処置：検査 診察 診療科 入院する

第3章 職場で：挨拶・マナー 上司・同僚と

加えて、「Tips (この「ひと言」)」として、日本語や日本人の生活、介護場面での人間関係の理解を深めるためのコラムも含まれ、以下のような内容が示されている^(注4)。

「Tips」の例：湯加減はどうですか

日本人はお風呂が大好きです、施設では毎日入るのは難しいので、お風呂の日を楽しみにしている利用者の方が多いです。

また、各場面の結尾に付された「ケアくんナビ」では、当該場面でよく使う他の便利な言葉や、関連する表現を紹介している。(例：お風呂の言葉、色・線・形、服の言葉、カレンダー、睡眠、家族親戚、性格、痛みの表現、病気と関連語、栄養、診療科名、順

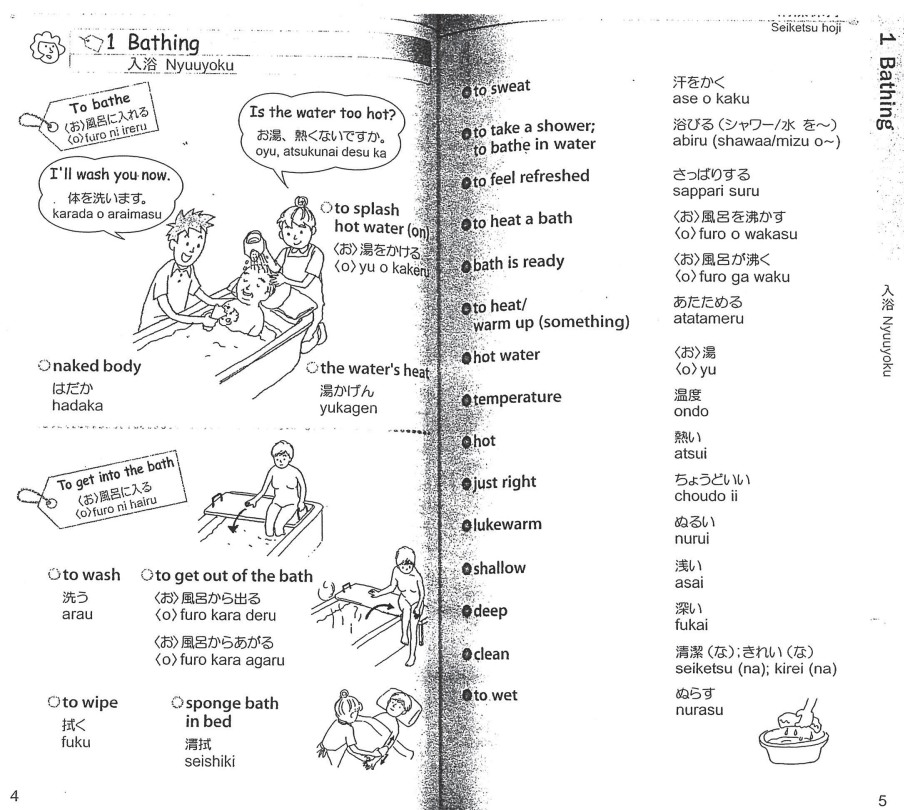


図1 日本語でケアナビ 英語版 内容例

番など。)

これに続く、「第Ⅱ部 英語から調べる：英和用語集」「第Ⅲ部 日本語から調べる：和英用語集」は、第Ⅰ部の索引の役割も果たしている。そして最後に「付録」として、日常的に用いる日本語表現がまとめてある。(例：親族名称呼称、人称、疑問詞、時間、お金、場所ほか、あんな人こんな人)

4. 2. 川村よし子『チュウ太の虎の巻 日本語教育のためのインターネット活用術』

「チュウ太」とは、『日本語読解学習支援システムReading Tutor』の愛称で、1999年10月に公開されたインターネットを利用して日本語が学べるシステムである。本書は、このサイトを有効活用するための「虎の巻」で、全体は3章立てとなっている。第一章は「虎の巻 その1 チュウ太の道具箱」として、「リーディング・チュウ太」の4つの要素（道具箱・読解教材バンク・リンク集・文法クイズ）を説明している^(注5)。そして第二章では「読解教材バンク」について、第三章では「近未来のチュウ太」として今後のサイトの方向性が、各々示されている。特に第三章では「介護用語の辞書作りも進行中」として、介護現場で使われている単語や表現と介護福祉士試験に出てくる語句を調査し、介護福祉士候補生のための「介護用語辞書」についてふれている。Webではすでに、日本語能力試験の出題基準の4級から1級までの8000語について、インドネシ

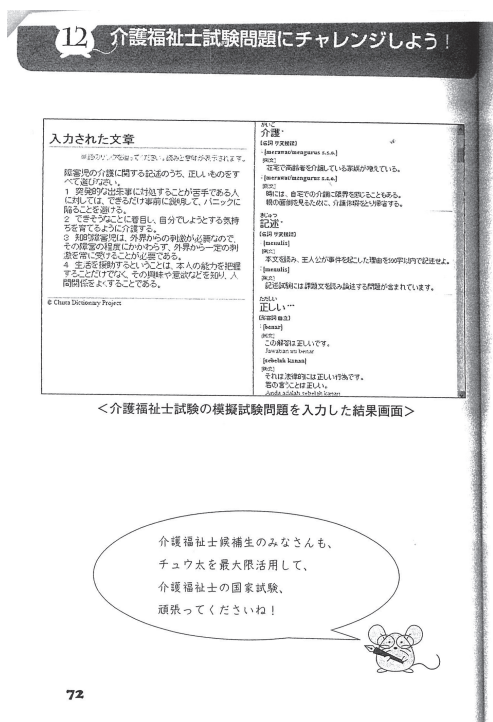


図2 チュウ太の虎の巻 例

できあがった介護辞書は、『チュウ太の web 辞書』に組み入れます。そのため、単なる辞書としてだけでなく、辞書ツールとしても使えるようになります。

図は、過去の介護福祉士試験をもとにして作った模擬試験問題を『チュウ太の web 辞書』に入力した結果です。ここでは言語の一例として、インドネシア語を選択しました。画面左の本文の各単語が右の辞書情報とリンクされています。この辞書情報に関しては、多言語辞書の編集が終わっている語については例文にも対訳情報がついたもの(例：「正しい」)が表示されます。未編集の場合には介護用語辞書の1語1訳の簡易辞書情報(例：「介護」「記述」)が表示される仕組みになっています。

介護の専門用語については適宜補っていきます。是非、時々 <http://chuta.jp/> を開いて、『チュウ太の web 辞書』を試してみてください。ごく近い将来、『チュウ太の web 辞書』に、介護用語が加わっていると思います。乞うご期待！

近未来のチュウ太

ア語、タガログ語、英語、中国語版が完成しており、またその介護辞書は『チュウ太のweb辞書』に組み入れられ（2010年7月現在）、これを用いて介護福祉士試験問題に挑戦することも可能である。

ところで、こうした介護現場での実態調査に基づく介護語彙リスト作成に際し、野村・川村（2010）では、介護現場におけるヒアリング調査を行っており^(注6)、並行して介護福祉士国家試験に関する語彙調査の結果を介護記録の結果と照合し、介護語彙リストが作成されている。現在は、使用頻度の情報をもとに、各単語の学習必要度も明らかにした上で、インターネット上の「リーディングチュウ太」に組み入れ、支援ツールとして公開されている。

4. 3. 日本フィリピンボランティア協会編集『介護の日本語 Japanese for Caregivers』

この教科書は、介護現場に必要な日本語会話能力の習得を目的とし、介護士が、日本人高齢者との生活で用いる様々な日本語表現について、現実の場面に即して提示されている。各課は、以下の8つのセクションから構成されているが、各セクションの内容は次の通りである。

「学習の目的（Objectives）」その課で学習する目的・項目を列挙する。

「会話（Conversation）」その課の特定の場面で交わされる、利用者と介護者の会話の形を示す。

「表現（Expressions）」まず各課でメインとなる表現をまとめる。それからフォーメーションとして、各課の表現や語彙を身につけるためのドリル練習を行う。

「会話覚書（Conversation Notes）」老人ホームの利用者とのスムーズな会話を行うための項目、たとえばお年寄りを元気付けるための表現などを紹介する。

「ストラテジー（Strategies）」その課の仕上げとして、学習した文型や表現を用いて、当てられたタスクを達成する練習を行う。

「ことば（New Words）」その課で新出したことばを列挙する。

「介護者に必要な専門用語（Technical Terms for Caregivers）」その課のトピックに関連した、介護者に必要な用語を列挙する。

「会話文翻訳（Translation）」各課の会話文の英語訳を紹介する。

またこの教科書では、登場人物として、フィリピン人介護福祉士であるフェイ（Fay）、ペドロ（Pedro）、日本人高齢者である佐藤キヌ、吉田武の4人が設定されており、ストーリー性のある展開となっている点が特徴である。各章の内容は、以下のとおりである。

(1) 起床

会話内容 利用者を起こし、朝食に連れて行く場面

ストラテジー 起こしにいてもなかなか起きてくれない時

(2) 食事介助

会話内容 食事時間であることを知らせる場面 食事を準備し介助する場面

ストラテジー 利用者がずっともぐもぐして口をあけてくれないとき
食が進まないとき

(3) 体位交換・移乗介助

会話内容 体位を交換する場面

ストラテジー 利用者が車椅子への移乗が（ママ）怖がっているとき^(注7)
車椅子への移動の際利用者がうまく体を動かさないとき

(4) 排泄

会話内容 オムツを交換する場面 トイレで排泄を介助する場面

ストラテジー 利用者から「もらしてしまいました」といわれたとき

(5) 衣類着脱

会話内容 衣類の着脱を介助する場面

ストラテジー 自分で服を着るように促すとき

(6) 清拭・入浴

会話内容 入浴介助をする場面 清拭を行う場面

ストラテジー 利用者がお風呂から出たがらないとき

(7) 生活環境整備

会話内容 掃除・ベッドメイキングの場面

ストラテジー 掃除中所有物を動かさないように注意されたとき

(8) 応急処置

会話内容 利用者の緊急事態に対応する場面

ストラテジー 利用者が床にたおれているところを発見したとき

次に、各章の内容について、第二章を例として詳しく見ていきたい。「見出し」及び「学習の目的」は英文で示されている。

例：Lesson2 Waking-up

*Objectives In this lesson you will learn to:

Wake the elderly up.

Call the elderly when his/her meal is ready.

Have a small talk with the elderly.

Encourage the elderly if he/she does not want to get up.

Conduct vital checks of the elderly when he/she looks sickly.

「会話」は、状況（英語で提示）を変えたいいくつかのパターンが日本語で示され、その翻訳は各課の末尾に英語で付けられている。

例：*Conversation: At the elderly's room

How to encourage the elderly who doesn't want to get up?

フェイ：よくねむれましたか。

吉田：ううん、あまりよくねむれなかったよ。

フェイ：そうですか。そろそろ朝ごはんの時間ですよ。

吉田：おきたくない…。

フェイ：ご気分はいかがですか。

吉田：ちょっとおなかが…。

フェイ：では、朝のお薬飲むので（→ヲが抜けている。ママ）、食堂へ行きましょうか。

吉田：そうだね。

◆ Nodding

There are verbal and non-verbal ways to communicate, which indicate that you are listening and agreeing to the listener's talk. You can use the following expressions when you give responses to make the conversation go smoothly with the elderly.

はい。／ええ。	Yes.
そうですか。	Is that so? / Really.
そうですね。	(Yes), it is.
なるほど。	I see.
ああ。	Oh, yes.

吉田：今日はテレビですもうをみるんだよ。

フェイ：ああ、すもうですか。いいですね！

吉田：すもうはおもしろいよね。

フェイ：そうですね。



Lesson 2

◆ Ending a conversation

じゃ／では、失礼します。

じゃ／では、よろしくお願ひします。

じゃ／では、また来ます。

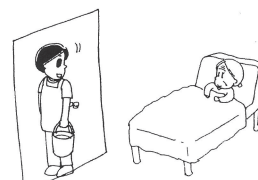


図3 介護の日本語

続く「表現」の項では、文型や文法が英語で説明されており、「Vital checking」として「How is ? (Nはいかがですか?)」や、「Extending invitations」として「It's time for N, so let's V. (そろそろNの時間なので、Vしましょう)」などの言い回しが提示されている。「会話の覚書」では、数種類の場面でよく用いられる日本語の短いフレーズが紹介されている。以下では、「会話の覚書 (Conversation Notes)」の中の「Nodding」の部分を示しておく。

さて、次の「ストラテジー」だが、ここがこの教科書のユニークな部分であり、実際に想定されるケースが示され、それを学習者が日本語でどのように対処するのか、考えさせるセクションである。介護に対する学習者の主体的・積極的な姿勢を促す項目となっている。

例：*Strategies

What would you say in the following situation?

1. You wake the elderly up and ask him/her to go to the dining room for breakfast.
2. You are taking the elderly to the dining room for dinner. He/She doesn't want to wake up. You encourage him/her to eat dinner.
3. The elderly doesn't seem very well. You ask him/her health condition.

このあと、「ことば」、「会話文翻訳」が付いており、加えてこの課では「Schedule」として、介護士の1日のスケジュールが表になって示されている。

4. 4. 日本語指導グループ“Y”編著『介護の言葉と漢字 ハンドブック英語版』国際厚生事業団

介護現場や介護日記に用いられる漢字の読み書きのための用語集である。対象者は、介護福祉士候補者および介護従事者で、300字程度（日本語能力試験3級レベル相当の漢字）の漢字を学習した非漢字圏の外国人とされている。提出漢字総数は429文字、提出語彙総数は（熟語を含む）約2200語である。漢字に音訓読み・画数・熟語・例文が付してあり、漢字・熟語・提出語彙にはすべてふりがなと英語訳が付き、50音順、アルファベット順、画数順の索引がある。

目次は、「1 施設の人」「2 施設」「3 施設内の物・介護用品」「4 献立表」「5 体」「6 体の症状」「7 介護士的一天（日勤・夜勤）」「8 介護日記（日勤日記・夜勤日記 よく使う言葉と表現）」「9 書類（利用者個人票・介護サービス計画書・主治医意見書）」の9章立てである。

その他〈付録〉として、「老人に多い病気・病院の診療科・日本地図・封筒の書き方・国民の祝日・年中行事・基本漢字」が、〈もっと知ろう〉というコーナーでは、「家

族・天気・おやつ・味・やまいだれ・月・日本人の名前ベスト10・気持ち・季節の言葉・よく使う敬語表現・否定の漢字・みる」といった項目が、紹介されている。

4. 5. JALアカデミー『介護スタッフのための声かけ表現集』

初級を終了したレベル（300時間学習）で、すでに介護の現場で働いている人やこれから介護の現場で働く人を対象に、「利用者本位」、「安全・安楽」、「残存機能の活用」の原則に基づき、「寄り添う心を原点とした声かけ表現が、介助の手順に沿って」提示されている。具体的には、日常生活の介助の基本である五大介助（移動・食事・排泄・衣類着脱・身体清潔）が取り上げられている。また、この本の特徴は、利用者の設定が、「失語症がない左片麻痺の利用者」となっている点で、極めて、現場に近い設定となっている。声かけ表現を機能面から整理し、声かけ表現と介助の手順が併記され、加えて、声かけの際のポイントや介助の留意点も示され、声かけと介助の両方がつながるよう工夫されている。また、付属のCDによって自然な話し方を確認でき、自習用としても活用が可能である。漢字にはすべて振り仮名がついている。以下、具体的な内容を簡単にまとめておきたい。

〈目次〉は、以下の通りである。

基本の声かけ

- | | |
|-----------|---|
| 1 移動の介助 | <ul style="list-style-type: none"> ・仰臥位から側臥位への体位変換（一人で寝返りができない場合）
（図4参照） ・ベッドから車いすへの移乗（立位が保てる場合） ・車いすでの移動（一人で操作できない場合） ・杖歩行 |
| 2 食事の介助 | <ul style="list-style-type: none"> ・食事の介助（座位が保てる場合） |
| 3 排泄の介助 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレでの排泄（立位が保てる場合） ・差し込み便器での排泄（腰上げができる場合） ・紙おむつ・パッドの交換（腰上げができない場合） |
| 4 衣類着脱の介助 | <ul style="list-style-type: none"> ・前開きタイプの上着・ズボンの着脱（立位・座位・腰上げができない場合） ・プルオーバータイプの上着・ズボンの着脱（立位・座位ができる場合） |
| 5 身体清潔の介助 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭浴槽での入浴（立位・座位はできるが、歩行ができない場合） ・特別浴槽での入浴（立位・座位・歩行ができない場合） ・全身清拭 |

さて、具体的な内容であるが、たとえば「基本の声かけ」では、「挨拶する (Greeting)」として「挨拶は利用者とのコミュニケーションの第一歩です。挨拶するときは必ず利用者と目を合わせ、笑顔で明るく声をかけましょう。また、挨拶は利用者の健康状態をチェックするという点からもとても大切です」という説明があり、具体的な挨拶の例が挙げられている。

例：＊朝、起きた時 (In the morning, when the recipients have awoken)

おはようございます。今日はいい天気ですね。昨日の夜はよく寝られましたか。

その他、「利用者に自立を促す」といった残存機能を生かすための表現 (例：ご自分でできるだけ食べていただけますか) や、「利用者に安心感を与える」表現なども挙げられている。また、第1章から第5章の内容構成は、「見出し」に続いて、具体的な介助の場面が示され、それに声かけ表現が併記されている。さらに利用者が嫌がった場合についての対応も示されている。(例：「いやだ」「眠い」「だるい」→「どこかお体の具合が悪いですか」「無理しなくてもいいですよ」「休んでいていいですよ」)


以上のように、実際の場面に即して具体的な対応がかなり細かく英訳付きで示されており、自習用教材としての配慮が行われている。

1 仰臥位から側臥位への体位変換
(ひとりでは無理な場合)
Changing the care recipient's position from supine to lateral
(if the care recipient cannot roll over without assistance)


1 最初の声かけをする
Addressing the care recipient

2 仰臥位から側臥位に体位変換する
Changing the care recipient's position from supine to lateral

3 体位変換が終わる
When the postural change is complete



1 最初の声かけをする
Addressing the care recipient



2 体位を確認する
Check his physical condition.

3 体の向きを変えるかどうか聞く
Ask him if he would like to change his body's position.

3 声かけのポイント

- 利用者が寝ているときは、まず「お休みのところ申し訳ありません」と声をかけましょう。
- 利用者の状態は毎日違うので、介助する前に必ず利用者の心身の状態を確認しましょう。
- 「体の向きを変えますか」という声かけては、必ず利用者の希望を聞く声をかけましょう。
- 体位変換を嫌がる場合は、安全・安全のために、体位変換が必要であることを説明して、同意してもらおうように声を工夫しましょう。

図4 声かけ表現集

5. おわりに

日本とアジア諸国とのEPA（経済連携協定）によって、2008年から外国人看護師・介護福祉士の受け入れが始まり、看護・介護現場での在日外国人の就労への期待も高まっている。介護の仕事では、相手を尊重し、相手に寄り添うやさしい気持ちをもって、よりよい人間関係を築くことが大切であるため、まず、いかにコミュニケーションをとるかが重要なポイントになる。特に、適切な声かけや言葉づかい、態度などは、よりよい介護技術を実践する上で欠かすことができない。また、身体的な援助と同様に、精神的な援助も重要である。介護職員には、被介護者が自らの存在価値を見出し、自立できるような対応をすることが求められるが、外国人介護士は、細やかで温かい仕事を発揮しており、こうした精神的援助が見直されてきているといった効果が上がっている。この意味でも、今後日本の介護現場で、外国人介護士の存在は必要だと認められる。彼らに対する日本語教育のシステムを整えることは、日本側の義務であるといってもよいだろう。

本稿の最後に、現時点での外国人介護士の日本語使用から見た日本語力の育成について述べておきたい。施設で働く外国人介護士の日本語の使用として、「話す・聞く」については、利用者への声かけのほか、挨拶、仕事に関する情報交換、報告や申し送りなどがあり、「書く・読む」については、介護記録や申し送りノートの作成などが挙げられる。

まず「聞く・話す」については、業務の中心的作業に含まれる。介護現場では、利用者からの訴えをきちんと聞いた上で、話をするといった音声活動が不可欠である。野原（2008）では、日本語についての「分かりやすさ」の予測が可能な要因として、「音声」も影響を与えているが、何よりも「談話の内容」が重視されることを指摘している。つまり、外国人介護士がいわゆる「かたこと」の日本語ではなく、ある程度まとまった内容の話が展開できるような能力をつけることで、こうした音声言語の力は更に高められるものと考えられる。

一方、実際の現場では、たとえば夜勤をする場合は介護記録を「書く」作業があり、「読む」についても、介護計画書を読んでケアを行うことが望ましい。介護作業では「話す・聞く」機会は多いため、現場での就労を通して自然とその力は向上していくことが期待されるが、「読む・書く」学習の機会は限られているため、各自が意識的にそうした力を育成するための努力を積まなくてはいけない。

EPAにおいても、来日直後は音声的な悩みが中心であるが、ある程度の就業実績を積んでくると、日本語の「介護記録」の漢字や専門用語が分からないという問題が発生してくる。2008年8月に来日したインドネシア人の第一期生は、すでに日本での生活期間も長く、日本の生活や仕事に慣れ、周囲との人間関係も構築している。そこで、日本

語に対しても新たな問題を抱えていることが予想される。読み書きまでを含め、現場に役立つような教材開発など、多様化するニーズにどう迅速に対応していくかが、今後の課題であろう。

注

- (注1) 2012年1月29日に、EPAにより来日した外国人介護福祉士候補者が、初めて国家試験を受験した。この際、テスト問題には、ふりがなや英語訳をつける、一定の点数をとり不合格になった場合にはもう一度受験のチャンスを与える、などの措置がとられた。
- (注2) ACTFL-OPIでは、言語に関する「知識」を測るのではなく、言語を使ってどんなタスクができるかを「機能・タスク」、「場面・話題」、「テキストの型」、「正確さ」という4つの要素から総合的に判定する。レベルは初級 (Novice)、中級 (Intermediate)、上級 (Advanced)、超級 (Superior) に分かれる。
- (注3) 例えばディスカッション活動では、レベルに応じてトピックを選び、グループの人数を調整する必要があるとし、特に発言の順番を取ったり、効果的に自分の意見を伝えたりする「談話能力」や、互いに発言を理解しあうための「ストラテジー能力」を練習に取り入れることが大切だとする。さらに評価では、内容や表現に加えて、協力的に参加したかどうかという観点も入れるべきだとしている。また、ロールプレイ活動では、学習者のレベルやクラスの人数などに合わせて、「課題」、「ロールカードの書き方」、「活動の方法と流れ」を考えることが必要で、これはとりわけ「社会言語能力」の育成に適した活動であるため、評価にもそれに関するものを取り入れる必要があるとしている。
- (注4) この他、「Tips」の項目として、「トイレはすみしましたか 着患脱健・脱健着患 グー・チョキ・パー 担当させていただきます 調子はどうですか ご家族の方ですか ちょっと待ってね すぐ行きますよ すみません むずむずする」などが、挙げられている。
- (注5) 4要素の詳細は、以下のとおりである。
「道具箱」：日本語の読解に役立つツール（道具）がそろっている。
辞書ツール レベル判定ツール 文型辞典ツール
「読解教材バンク」：あらかじめ日・日英・日独の3種類の辞書ツールで教材化した初級・中級・上級の読み物がそろっている。
「リンク集」：日本語学習に役立つサイトへのリンク集。
「文法クイズ」：クイズに挑戦して、文法力がチェックできる。
- (注6) 介護記録に対するヒアリング調査では、介護記録とは何か、その目的などが示されている。それによると、介護記録とは、生活記録、ケア記録であり、利用者の訴えや要望、体調、介護サービス行為とその反応や成果に関することを記入するものとされ、介護記録を書く目的については、事実を残し、職員間で情報の共有を図る、保存しケアをさかのぼるといったことが挙げられている。
- (注7) 2005年版のこのテキストでは、文法的な誤りや言い回しの自然さなどについて、いくつか気なる点が見られた。

参考文献一覧

- 石川美和 (2008) 「介護福祉士による『日誌』『申し送り』の諸特徴」『ことば』29, 73-82
- 石鍋浩 (2007) 「コメディカル専門用語に使用される漢字の出現傾向調査—留学生向け学習漢字の選定とワークブックの施策 (第一報)」『国際医療福祉大学紀要』12 (2) 63-71
- 上田和子 (2007) 「『看護・介護のための日本語教育支援データベース』開発調査をめぐって」『国際交流基金日本語教育紀要』3 183-190
- 大城朋子 (1992) 「沖縄国際センター (OIC) の集中講習臨床看護実務コース」『日本語学』11 (10) 99-113
- 川村よし子 (2009) 『チュウ太の虎の巻 日本語教育のためのインターネット活用術』くろしお出版
- 国際交流基金関西国際センター編著 (2009) 『外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ 英語版』凡人社
- 国際交流基金 (2007) 『国際交流基金教授法シリーズ6 「話すことを教える」』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2008) 『国際交流基金教授法シリーズ5 「聞くことを教える」』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2007) 『国際交流基金教授法シリーズ9 「初級を教える」』ひつじ書房
- JALアカデミー (2009) 『介護スタッフのための声かけ表現集』凡人社
- 関正明 (1982) 「『東南アジア看護婦のための短期日本語研修講座 第二部東海大学における留学生 日本語教育特別講座』」『東海大学紀要』4 87-90
- 中山恵理子 (2003) 「介護現場のカタカナ語」『日本語科学』13 58-75
- 永井涼子 (2007) 「看護師による「申し送り」会話の談話管理——スタイルシフトを中心に」『日本語教育』135 80-89
- 日本フィリピンボランティア協会編集 (2005) 『介護の日本語 Japanese for Caregivers』特定非営利活動法人日本フィリピンボランティア協会編集
- 日本語指導グループ“Y”編著 (2009) 『介護の言葉と漢字 ハンドブック英語版』国際厚生事業団
- 野田尚史 (2009) 「コミュニケーションのための日本語教材作成方法」『2009年度日本語教育学会研究集会第7回 (関西地区) 2009年9月26日』
- 野原ゆかり (2008) 「発話の「分かりやすさ」を判断する要因——一般日本人と母語話者日本語教師の比較を通して——」『人間文化創成科学論叢』11 165-174
- 野村愛・川村よし子 (2010) 「介護現場での実態調査をもとにした介護語彙リスト作成—外国人介護士のための日本語学習支援を目指して」『2010年度日本語教育学会春季大会予稿集』
- 増田光司他 (2006) 『留学生のための二漢字語に基づく基礎医学述語学習辞典—日本で働く医療関係者のために』凡人社
- 結城康博 (2010) 『介護入門』ちくま新書
- 厚生労働省 (2007) 日・インドネシア経済連携協定に基づくインドネシア人看護師・介護福祉士候補者の適正な受け入れについて
<http://mhlw.go.jp/bunya/koyou/other21/index.html>
- 厚生労働省 (2007) 日・インドネシア経済連携協定に基づくフィリピン人看護師・介護福祉士候補者の適正な受け入れについて

<http://mhlw.go.jp/bunya/koyou/other07/index.html>

本稿は、平成21年度科学研究費補助金（基盤研究C 21520546 研究代表者 立川和美）「介護現場における外国人介護労働者との異文化コミュニケーションに関する研究」の一部です。